

(学校番号231)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮中学校】

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>学習習慣の確立がされておらず、基礎的・基本的な知識・技能が定着していない。 <指導上の課題>生徒が自らの学習を振り返る時間や学習計画を立てる時間の設定が確保できていない。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【毎授業開始時の実施】。 授業中に生徒が自らの学習を振り返る時間や学習計画を立てる時間を設定する【毎時間設定】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>自分の考えを言葉で表す活動に課題が見られ、「思考・判断・表現」の記述式問題の無回答率が高い。 <指導上の課題>根拠を明確にして自分の考えを説明する活動や他者と教え合ったり高め合ったりするような授業が少ない。	⇒ 生徒が作品・レポート等に取り組む際に、手立てや評価の観点を明確に生徒に提示した上で、観点に沿った評価をする【毎回実施】。 意欲的に授業に取り組む態度を育て、協働的な学びをとおして考えたり表現したりすることができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答が80%以上】。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「情報の扱い方に関する事項」において、特に「意見と根拠の関係」や「具体と抽象の関係」を捉える問題に課題が見られた。意見と根拠、具体と抽象の関係性の理解が不十分であることが考えられる。学習状況では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」における肯定的な回答の割合は83%であったため、今後も主体的な学びを意識した授業を継続していく。
思考・判断・表現	数学の「図形」の領域において課題が見られた。筋道を立てて考える証明や、角の大きさに着目して考える問題が正答率が低く、すでに提示された事象から新たな性質を見出すまでの過程を考える力が不十分であると考えられる。学習状況では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」における肯定的な回答の割合は90%であったため、今後も協働的な学びの場面を活用し、生徒の考える力を高めていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。 生徒が自らの学習を振り返ったり学習計画を立てたりする時間の確保ができていなかった。生徒一人ひとりの実態把握に努め、支援しながら、生徒が自らの学びをメタ認知できるようにしていく。	「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【毎授業開始時の実施】。 授業中に生徒が自らの学習を振り返る時間や学習計画を立てる時間を設定する【毎単元設定】。
思考・判断・表現	B	生徒が課題に取り組む際、手立てや評価の観点を明確に生徒に提示することができた。 意欲的に授業に取り組めるよう、授業の工夫をし、協働的な学びの場を多く設定することができた。	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の我が国の言語文化に関する問題は、市の平均を上回り、改善が見られた。自校テストでは、基礎的・基本的な内容でも正答率の低いものがあった。既習内容を確認する時間を確保したり、反復学習を行ったりしていく。また、基礎的・基本的な内容の理解を大切にし、生徒が「知識・技能」を獲得していけるよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	国語では目的に応じた適切な情報を得て内容を解釈する問題、数学では与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題について、無解答率が高かった。つまり、解答を導くための情報を整理する力が弱いと考えられる。教科横断的に、複数の情報の中から必要な情報を見付ける活動や、他者と関わり教え合う課題解決学習に取り組む、「思考力・判断力・表現力」を高めていきたい。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	C	R6年度生徒対象の学校評価の「ドリルパークやスタディサプリ等を活用して、自主学習や家庭学習をし、定期試験や成果確認テストに向けた勉強に取り組んでいますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が53%であった。授業の中で、漢字や基本的な計算等の反復学習を行う時間の確保が難しいときがあった。
思考・判断・表現	A	R6年度さいたま市学習状況調査の「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が全学年87%以上であった。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が全学年85%以上であった。課題を解決するために生徒が主体的に励んだり、友達との関わりの中で学びを深めたりすることができた。

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度以降も引き続き授業内で復習や反復学習の時間をとり、基礎的・基本的な内容の定着を図ること、計画的に学習を行う学習習慣の確立を図る。さらには、個別に支援が必要な生徒への手立てを考え、基礎学力の向上に尽力していきたい。
思考・判断・表現	学級内での話し合い活動には抵抗なく取り組んでいる実態がある一方で、必要な情報を整理し、課題を解決するような学習活動に課題が見られる。各教科の授業の中で、複数の情報の中から必要な情報を見付ける活動や、他者と関わり教え合う課題解決学習に取り組む、「思考力・判断力・表現力」を高めていきたい。

※評価  
 A 8割以上(達成)    B 6割以上(概ね達成)    C 6割未満(あと一步)